

短 報

ヒロハイヌワラビ、イトスゲの新産地 (山口賢一^a, 上野雄規^b)

Ken-ichi YAMAGUCHI and Yuki UENO: New Localities of *Athyrium wardii* (Hook.) Makino (Woodsiaceae) and *Carex fernaldiana* H.Lév. & Vaniot (Cyperaceae) from Miyagi Prefecture

蔵王連峰の東端に位置し、阿武隈山地の北端に接する青麻山域で植物相調査を行い、ヒロハイヌワラビ *Athyrium wardii* (Hook.) Makino とイトスゲ *Carex fernaldiana* H.Lév. & Vaniot を発見した。

倉田・中池 (1990) によると、ヒロハイヌワラビの北限は、太平洋側では福島県樽葉町、日本海側では秋田県象潟町とされている。1996年7月26日に、著者らは青麻山で本種の自生を確認した。自生地は標高約380mの登山道沿いで、スギ林のある東向き斜面の林床であった。これまで宮城県からの報告はない。岩手県植物誌 (1970) にはヒロハイヌワラビの記録があるが、その後井上 (1976) によって、それらはカラクサイヌワラビの誤同定であったと訂正されている。したがって、当地がこの植物の太平洋側での北限となる。

また、1996年5月17日と24日の両日に著者らは同じ青麻山の登山道沿いでイトスゲの自生を確認した。イトスゲは北海道・本州〜九州に分布するとされ (大井1982)、東北地方では福島県の浜通りと中通りに生育する (福島県植物誌編さん委員会1987, 上野1991)。宮城県内にあるとする記録 (野口・安嶋1994) もあるが、具体的な産地は公表されていない。宮城県は本州における北限域である点で、青麻山における本種の発見は分布上注目できるものと思われる。本種の自生地は標高約600mの登山道沿いで、ミズナラ・イヌシデ林のある南東斜面の林床に、タチツボスミレやヒナスミレ、ツルキンバイなどと混生していた。

両種の証拠標本は、東北大学大学院理学研究科生物学教室植物標本庫 (TUS) に納めた。

証拠標本

ヒロハイヌワラビ *Athyrium wardii* (Hook.) Makino

宮城県刈田郡蔵王町小森山-青麻山山頂320-340m alt. (山口賢一他1996.7.26, 180241, 180242 TUS)

イトスゲ *Carex fernaldiana* H.Lév. & Vaniot

宮城県刈田郡蔵王町沢北-青麻山山頂620-640m alt. (山口賢一他1996.5.17, 180243, 180244 TUS)

宮城県刈田郡蔵王町沢北-青麻山山頂620-640m alt. (山口賢一他1996.5.24, 180238, 180239, 180240 TUS)

本稿をまとめるに際し、東北大学大学院理学研究科生物学教室の大橋広好教授、横山潤助手、根本智行助手、米倉浩司氏をはじめ研究室の方々、および上越教育大学自然系生物学教室の五百川裕助手に様々な便宜をいただいた。記して感謝いたします。

引用文献

福島県植物誌編さん委員会 (編) 1987. 福島県植物誌, p. 193. 福島県植物誌編さん委員会, 福島.

井上幸三 1976. 岩手植物の会会報. 13: 11-12.

岩手植物の会 (編). 1970. 岩手県植物誌, p. 141. 岩手植物の会, 盛岡.

倉田 悟, 中池敏之 (編). 1990. 日本のシダ植物図鑑, 6: 636-650. 東京大学出版会, 東京.

野口達也, 安嶋 隆 1994. 北本州産カヤツリグサ科チェックリスト(1)スゲ属. すげの会会報, (5): 31-38.

大井次郎 1982. スゲ属. 佐竹義輔他 (編) 日本の野生植物, 1: 146-168, pls. 126-149. 平凡社, 東京.

上野雄規 (編) 1991. 北本州産高等植物チェックリスト, pp. 32, 85. 東北植物研究会, 白石.

(^a 東北大学大学院理学研究科生物学教室, ^b 仙台市太白山自然観察の森自然観察センター)